

# 誰も我々を救出してくれない——イエメンの米人たちを見捨てる米政府

【訳者注】このニュースに特に注目したのは、理由がある。それは、アメリカの戦争が、従来我々が考えていたような、国と国との戦争ではないことを、このニュースは示唆するからである。彼らの戦争は、地球を私物化する権利をもつ選ばれた少数者と、それを邪魔するその他の者との戦争である。彼らは“グローバル・エリート”であって、国籍は関係がない。多くの人が言うように、アメリカは帝国であって民主主義国家ではない。したがってアメリカ軍というのは、P. C. Roberts が言うように、彼らの私兵である。同様に、国民は本質的に彼らの奴隷だから、政府には国民の生命財産を守る義務があるなどとは、彼らは考えていない。アメリカ幻想の抜けない人たちは、まさか思うだろうが、ここ数年、それが次第にはっきり見えてきて、このニュースによって、その事実が完全に証明されたと言ってよい。

April 11, 2015

RT (Russia Today)

<http://rt.com/news/248925-americans-yemen-evacuation-war/>

イエメンで、サウジアラビアに導かれた空爆が続き、地上の戦闘が激化するなかで、イエメンに足止めされている米市民たちが、この戦争に引き裂かれた国を脱出しようとして助けを求めるのを無視するワシントンに対し、激しい非難をぶつけている。

空爆と市街戦は、イエメンの人々にとって日常の現実になっている。「毎日、数回の空爆が聞こえてきて、とても怖い現状です」と、イエメンに閉じ込められているアメリカ人の Arwa Al-Iraine は RT に話した。

「誰も我々の疎開を考えてくれません。[米政府の] 返答はただ、政府は疎開の計画はもっていないと機械的に言うだけです。基本的に、私たち自身で何とかするより外ありません。」

この戦闘のつづく国に立ち往生している、もう一人の米国市民 Shamsan Mansoob は、ワシントンを非難して「彼らからは何の通知もありません」と嘆いた。彼は RT に対し、自分の家族——妊娠した妻と一人の息子——は戦闘地帯を離れることさえできないでいるが、

それは「ガソリンスタンドにガソリンがないからだ」と言った。

各病院では、毎日、何十人もの人々が死に、死亡者数を抑えようと格闘している。水曜日に、世界保健機構（WHO）は、3月19日と4月6日の間に、643人がイエメンにおける暴力行為によって死んだと発表した。この数字には74人の子供が含まれている。

2週間前、最初のアメリカ市民が、フーシ派と政府軍の戦闘に巻き込まれて死んだ。

「彼は3週間以上もそこから動けなくなり、この国を脱出する救助を待ったのですが、残念なことに、首都サナーとアーデン市の空港が閉鎖された後、彼は他の人々と共に、そこを動けなくなりました」と、この殺されたアメリカ人 **Jamal al Labani** のいとこ **Mohammed Alazzani**, 27歳は RT に語った。



空爆によってイエメン北西部のサーダ市が爆撃された後、煙を上げる軍事供給拠点近くを、フーシ派戦闘員が歩いている。

ラバーニは、モスクから帰る途中、戦車の砲撃による散弾によって死んだ、即死だった、といとこのアラザーニは言った。

こうした話は、いまだに戦闘地帯で動けなくなった人々から聞く、何ダースもの話の一例にすぎない。

「何百ものアメリカ人家族が現実にイエメンから動けなくなり、脱出を求めている。疎開の具体的なチャンスが国務省から与えられなければ、彼らは他国のそれを利用すべきだ」と、活動家でフリーランサーの **Summer Nasser** は、RT に語った。

「空爆は、最近では、最大の問題ではなくなっている。それよりも軍隊そのものの狙撃で、アーデン港周辺の砲撃もそうだ。あそこでも人々が殺されている。アーデンの郊外で製造工場が 2 回空爆されたのを私は知っているが、それは弾薬の製造をしていた」と彼は付け加えた。

いくつかの人権グループが、イエメンに残っている米市民救出のための、オンラインの活動を始めた。これまでのところ、500 人以上の米人がウェブサイトに乗っている。

<http://www.stuckinyemen.com/>

**関連記事:**「細菌扱い？ 人権グループが、イエメンの 1,000 人以上の米人の救出を拒否する 国務省を訴える」 <http://rt.com/usa/248529-americans-evacuation-yemen-lawsuit/>

ワシントンの救助を求めている運動家の一人 **Abed Ayoub** は、「アメリカン - アラブ反差別委員会」の法・政策主任だが、彼は「私たちはイエメンに住むアメリカ人の多様なことに驚いた」と語った。

火曜日、いくつかの人権委員会は、動けない自国市民を救出しないオバマ政府を相手取って、訴訟を起こした。

「我々は、国務省が動いて責任を果たし、米市民を帰国させることを願っている」と **Ayoub** は RT に語った。「圧力が国務省にかかっている今、彼らは行動を要求され、行動しなければならない立場です。我々が訴訟を起こすというようなところまで、行ってはならないのです…」



サナー空港近くの住宅地の空爆跡に人々が集まっている。

「米政府はこれまで、米市民を疎開させるために何もしていませんが、彼ら自身はすでに2月に、大使館職員のすべてをイエメンから疎開させています」と、アメリカ-イスラム関係評議会の代表 **Jenifer Wicks** は RT に語った。

「私たちはこの問題に、彼らの注意を向けさせようと、あらゆる努力をしましたが、国務省の記者会見や他のリリースを見て、私が理解する限り、彼らは基本的に〈どうぞご無事で〉と言うだけです。」

アメリカは、サウジの空爆作戦には輸送の支援をしているが、米市民をイエメンから疎開させる「いかなる政府援助による計画もない」ことを、すでに言明していた。

<https://soundcloud.com/rttv/evacuation-yemen>

木曜日には、国務省報道官 **Jeff Rathke** が、国務省は「いくらかの米市民がイエメンに残っていることは承知している」と言った。

「いろんな手段を通じて我々は連絡を取り、脱出を希望する人々に訪れる機会 (opportunities that present themselves for people who leave if they choose) を逃さないように、イエメンの米市民に忠告しています」と **Rathke** は言った。

アメリカが、自国市民を疎開させようとしなないのに対して、モスクワからは数便の飛行機が送られ、ロシア人がサナー国際空港から脱出するのを助けている。

彼らはまた、ベラルーシ、ポーランド、ウクライナ、キルギス、ウズベクなど、他の外国人をも疎開させた。火曜日には、救出活動をリードしていたインドが、すでに安全な場所に移されていた自国民に加えて、200人以上の外国人を疎開させた。

「インドは3日間で、4,000人以上の自国籍人を脱出させました。インドにそれができるのなら、アメリカにできないのはなぜでしょうか？」と、**Ayoub** は質問した。